

社会保障ワーキンググループ
工程表に関する補足事項
(薬価・調剤報酬)

2015年11月26日

伊藤由希子

(社会保障ワーキング・グループ委員)

誰が何をするのか？

- 病院 病床機能と規模の適正化（特に療養病床の医療規模）
①②③
- 診療所 地域包括診療（かかりつけ医）機能
⑤⑧⑨
- 保険薬局 かかりつけ薬局機能（情報の一元化・継続化）
⑬⑯⑰（調剤基本料・調剤料等の抜本的な見直し）
- 医薬品製造 後発品の信頼性向上・新薬の開発
⑲⑳㉑㉒㉓
- 医薬品流通 取引価格の透明性（単品単価取引による妥結率向上）
㉔㉕㉖
- 都道府県 地域医療構想と医療費適正化計画の策定（権限強化）
地域医療介護総合確保基金
④⑥⑦⑩⑪㉗
- 保険者 特定健診/保健指導・データヘルス計画・給付の適正化
⑫⑬⑭⑮⑰⑱㉘㉙

保険薬局

- ③⑦調剤料の報酬算定基準が院内と院外で大きく異なり院外での処方には日数や剤数に応じた加算がある。
- 調剤料は8257億円(H26年度)であり、報酬の見直しは(項目②⑧～③⑧の中では)最も金額的規模が大きい。
- 薬局の調剤料基準は情報化による低コスト化に現行制度が適合していないために発生している。

(参考)

調剤医療費の動向(平成26年度) 2015年9月3日厚生労働省発表資料

表2-1 調剤医療費の内訳(総額)

	実数(億円)							対前年度比(%)						
	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	
調剤医療費	-	58,124	60,389	65,133	65,902	69,933	71,515	-	3.9	7.9	1.2	6.1	2.3	
技術料	-	14,540	15,911	16,435	17,020	17,371	17,682	-	9.4	3.3	3.6	2.1	1.8	
調剤技術料	-	11,965	13,061	13,530	13,868	14,205	14,572	-	9.2	3.6	2.5	2.4	2.6	
調剤基本料	-	3,827	4,333	4,509	4,738	4,897	4,988	-	13.2	4.1	5.1	3.4	1.9	
調剤料	-	7,386	7,472	7,730	7,915	8,065	8,257	-	1.2	3.4	2.4	1.9	2.4	
加算料	-	752	1,256	1,291	1,215	1,243	1,327	-	66.9	2.8	▲ 5.9	2.3	6.7	
薬学管理料	-	2,576	2,850	2,905	3,152	3,166	3,110	-	10.7	1.9	8.5	0.4	▲ 1.8	
薬剤料	-	43,487	44,376	48,590	48,771	52,444	53,711	-	2.0	9.5	0.4	7.5	2.4	
内服薬薬剤料	-	36,841	37,372	40,881	40,729	43,755	44,460	-	1.4	9.4	▲ 0.4	7.4	1.6	
屯服薬他薬剤料	-	328	343	369	368	382	384	-	4.7	7.4	▲ 0.2	3.9	0.4	
注射薬薬剤料	-	1,159	1,293	1,555	1,719	1,959	2,208	-	11.5	20.3	10.5	14.0	12.7	
外用薬薬剤料	-	5,159	5,368	5,784	5,955	6,348	6,660	-	4.0	7.8	2.9	6.6	4.9	
(再掲)後発医薬品薬剤料	-	3,002	3,619	4,203	4,958	5,999	7,195	-	20.5	16.1	18.0	21.0	19.9	
特定保険医療材料料	-	96	102	108	112	118	122	-	5.9	6.1	1.0	5.4	3.6	

注1) 「調剤医療費」とは、調剤報酬明細書に記録された「点数」に10を乗じたものである。

注2) 「調剤基本料」には、基準調剤加算、後発医薬品調剤体制加算、夜間・休日等加算、時間外等の加算(調剤基本料に係る部分)、及び在宅患者調剤加算を含めている。

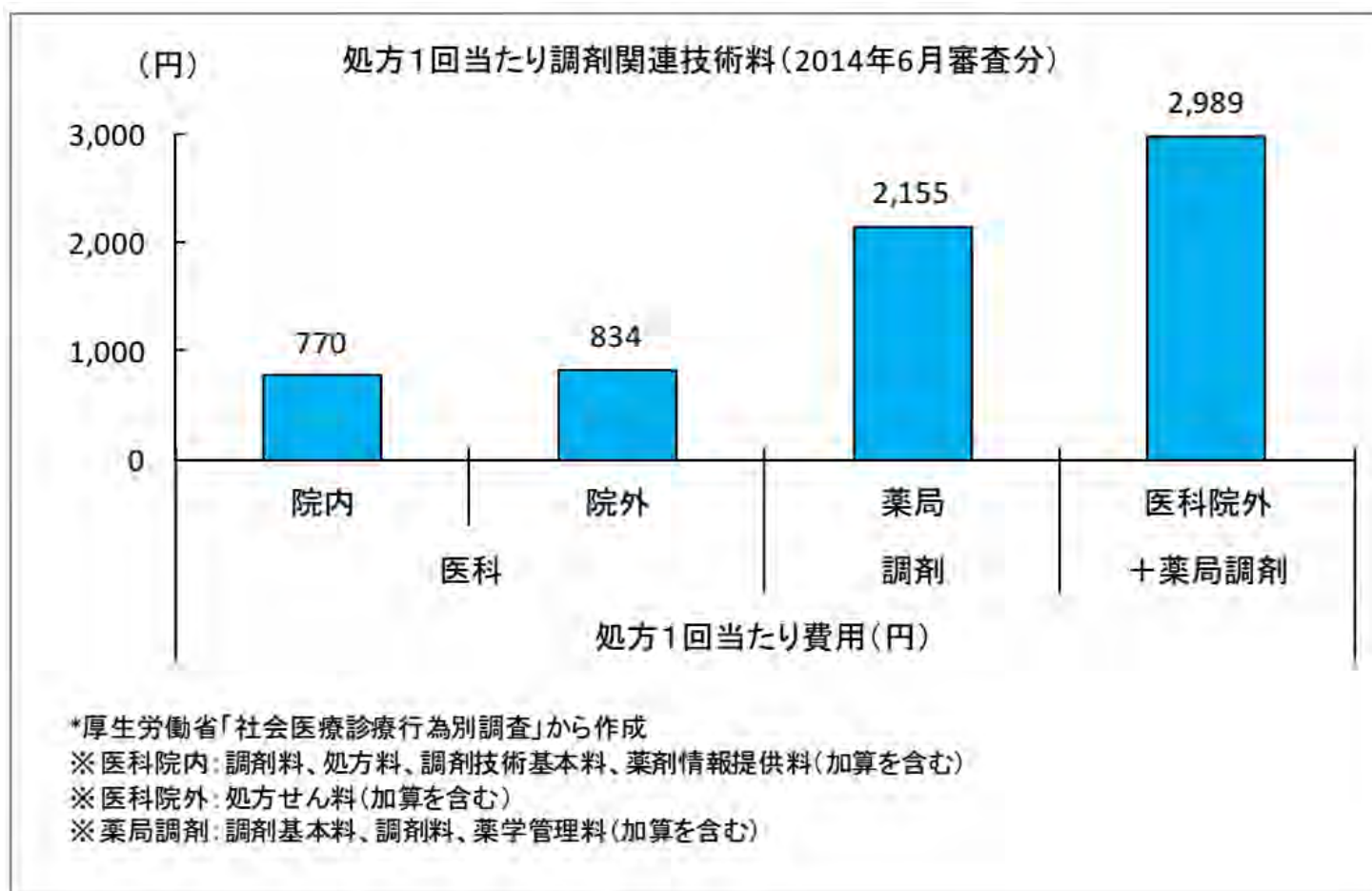
注3) 「内服薬」とは、内用薬のうち、調剤報酬明細書に記録された剤形が「内服」もしくは「一包」である薬剤をいう。

注4) 「屯服薬他」とは、内用薬のうち、調剤報酬明細書に記録された剤形が「屯服」「内滴」「浸煎」「湯」である薬剤をいう。

注5) 調剤医療費及び処方せん枚数(受付回数)の電算化率が99.0%を超えた平成21年度以降を公表の対象範囲としている。

③7 調剤技術料に伴う院内・院外差

社会医療診療行為別調査によると、処方1回あたり
院内(医科レセ)調剤関連技術料 は770円
院外(調剤レセ)調剤関連技術料 は2155円



(参考:算定式) 前田(2015)より引用

原典:「社会保険診療行為別調査」(2014年6月審査分)

医科(入院外)

		点数 (点)	回数 (回)	処方1回 当たり(円)	備考
院内	調剤料	234,983,778	29,428,827	99	内服薬等90円、外用薬60円※
	調剤料加算	2,259,309	2,259,309	1	
	処方料	995,155,726	23,799,687	418	420円(7種類以上290円)
	処方料加算	375,133,639	10,854,717	158	
	調剤技術基本料	43,195,096	5,399,387	18	
	薬剤情報提供料	173,710,290	17,371,029	73	月1回100円(算定しないケース有)
	薬剤情報提供料加算	7,886,556	2,628,852	3	
	計	1,832,324,394	91,741,808	770	
院外	処方せん料	4,050,443,516	60,618,768	668	680円(7種類以上40円)
	処方せん料加算	1,002,430,088	41,750,130	165	特定疾患処方管理加算等
	計	5,052,873,604	102,368,898	834	

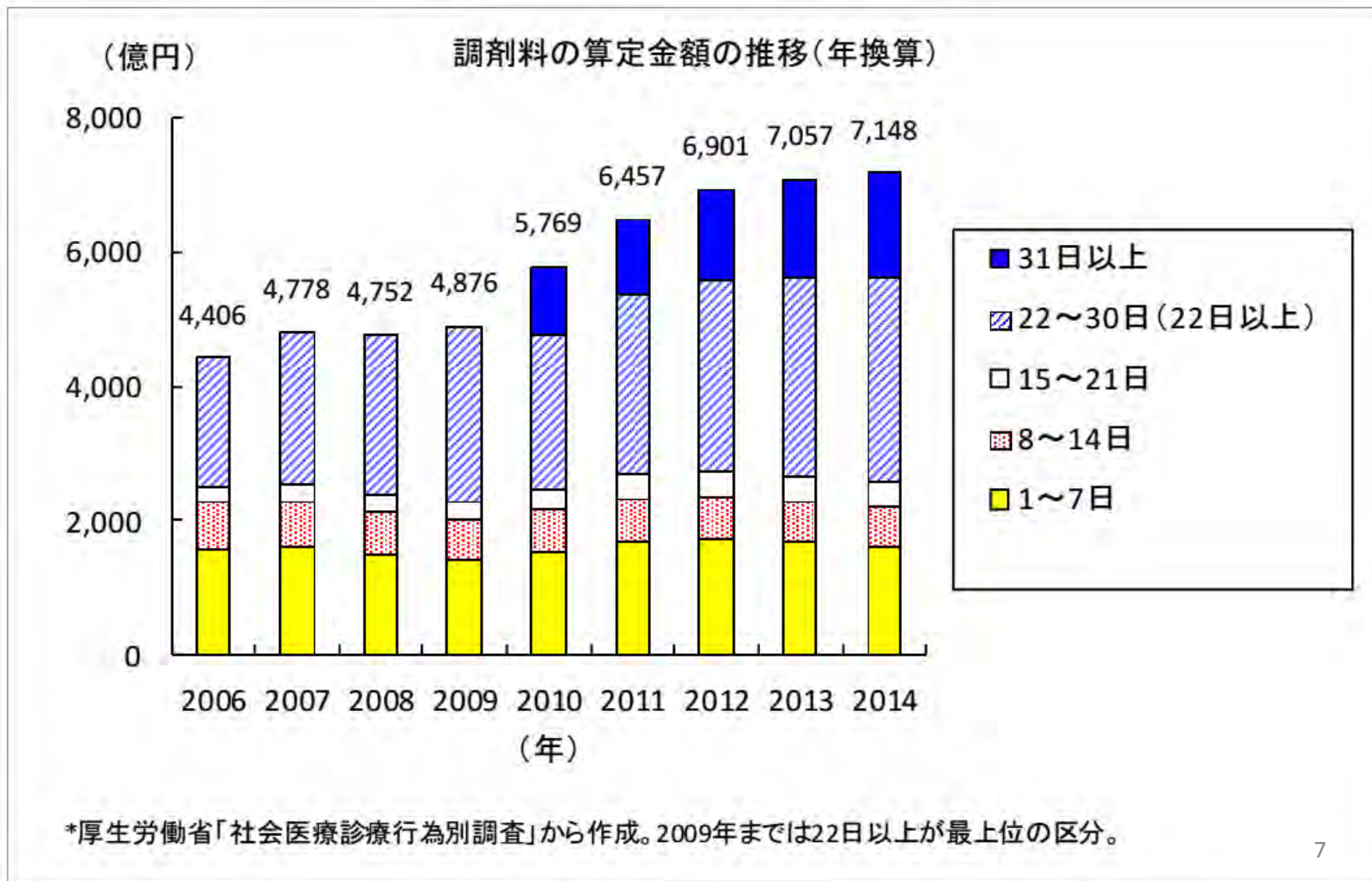
薬局調剤

	点数 (点)	回数 (回)	処方1回 当たり(円)
受付回数	—	64,153,123	—
調剤基本料(含特例)	2,550,754,575	64,126,903	398
調剤基本料加算	1,170,365,957	67,685,642	182
調剤料	6,472,712,034	487,172,794	1,009
調剤料加算	1,144,934,472	35,947,903	178
薬学管理料(含加算)	2,488,937,001	61,696,844	388
計	13,827,704,039	716,630,086	2,155

医科(入院外)・薬局調剤とも
加算の回数は再掲

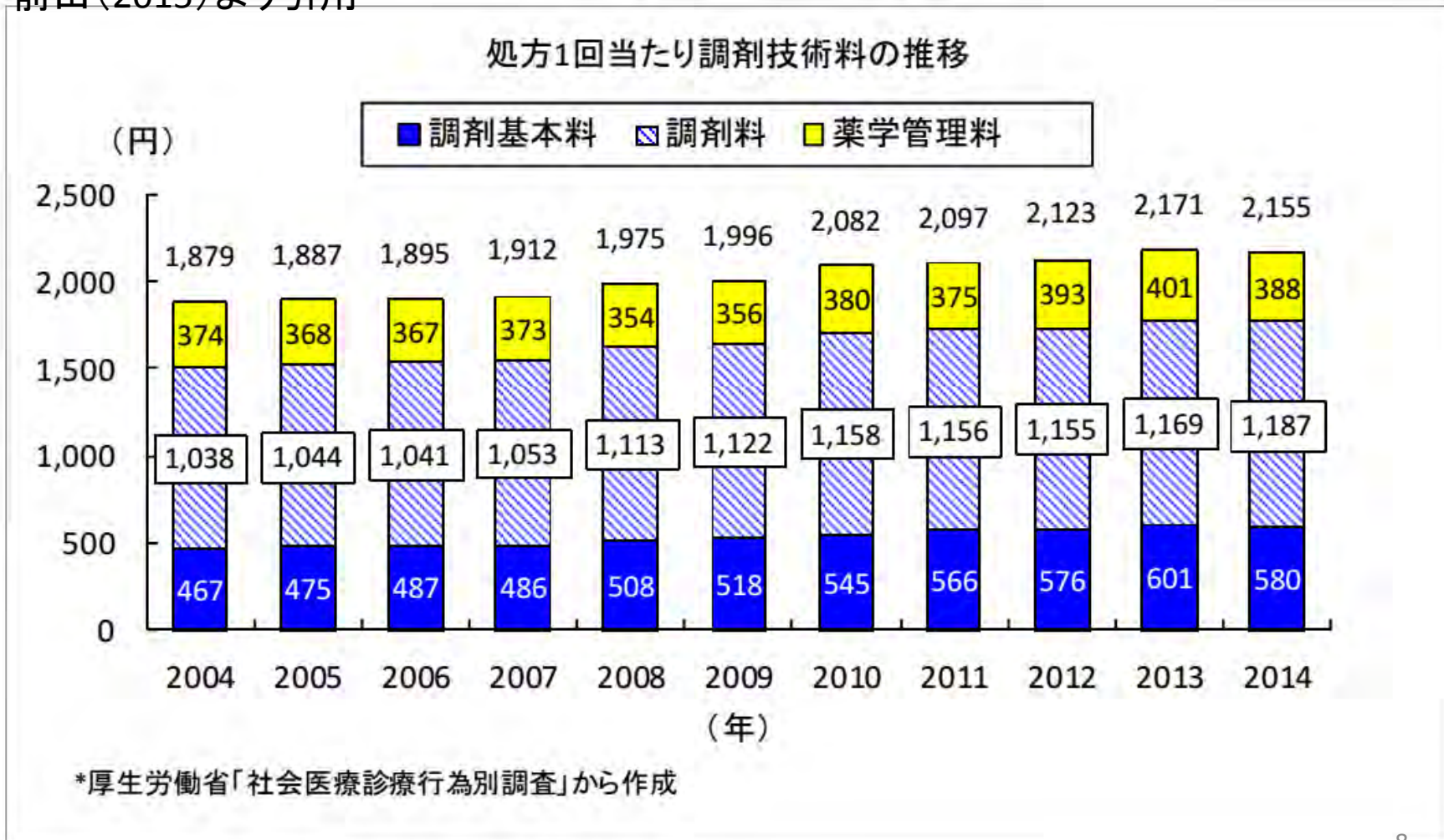
31日以上の長期処方に関する調剤料の算定金額が増加している

※ 前掲 前田(2015)から引用、但し、数値は2014年6月診療分を12倍したもので、調剤医療費公表値とは差異が生じる。



処方箋1回あたりでは、過去10年間で、
調剤料(約150円増)・調剤基本料(約110円増)の順に増加
薬学管理料(約10円増)は殆ど変化していない

前田(2015)より引用



医薬品

2014年の医療用医薬品の市場は10兆円* (*IMS Health 調査 ※保険適用外(自己負担)医薬品含)

(百万円、%)

	売上高	前年比
合計	9,983,426	1.4
病院	3,927,171	1.4
開業医	2,176,245	-1.9
薬局その他	3,880,010	3.3

※薬価ベース

出典：IMSヘルス

売上上位10薬効

(百万円、%)

	薬効名	売上高	前年比
1	抗腫瘍薬	747,747	7.3
2	レニン-アンジオテンシン系作用薬	611,037	-5.0
3	糖尿病治療薬	481,864	4.4
4	抗血栓症薬	440,735	7.4
5	脂質調整剤及び動脈硬化用剤	400,129	-6.5
6	制酸剤、鼓脹及び潰瘍治療薬	397,394	-5.0
7	免疫抑制薬	339,025	3.5
8	全身性抗菌薬	330,959	-7.3
9	喘息及びCOPD治療薬	317,395	-0.2
10	向精神薬	302,575	-3.5

※薬価ベース

出典：IMSヘルス

14年1月～12月の売上上位10製品

(百万円、%)

	製品名	売上高	前年比	14年4月の薬価改定率	備考
1	プラビックス	128,787	10.3	2.8	新薬創出加算
2	アバスチン	101,687	12.8	2.9	新薬創出加算
3	オルメテック (第一三共)	90,579	0.9	-5.4	
4	レミケード	86,686	-6.9	-10.9	市場拡大再算定
5	プロプレス	83,610	-20.7	-3.4	
6	モーラス (久光)	82,483	-7.1	-4.8	特例引下げ (2.0%)
7	ネキシウム	79,871	43.4	-5.2	
8	ジャヌビア	77,175	-6.7	-10.1	市場拡大再算定
9	リリカ	76,750	32.8	2.2	新薬創出加算
10	ミカルディス	71,871	1.0	-4.6	

製品売上 (薬価ベース) と伸び率はIMSヘルスマとめ。

薬価改定率と備考はミクス編集部まとめ。

▽薬価改定率 = 通常改定分に各種加算、各種引下げ、消費税対応分 (上乘せ分) を含む最終的な改定率 (汎用規格、モーラスはテープ剤)

▽例 「2.8」 → 2.8%の引き上げ 「-5.4」 → 5.4%の引き下げ

▽備考は各種加算・引下げ項目を記載

【新薬創出加算適用企業】

- 1位 プラビックス (サノフィ) は抗血小板薬 2006年保険収載 2015年後発品収載
 2位 アバスチン (ロシュ・中外) は抗癌剤 2007年保険収載
 9位 リリカ (ファイザー) は神経疼痛用薬 2010年保険収載

【特例引下げ (Z2)】 後発薬の存在する先発薬 (長期収載品) の追加的薬価の引下

- 6位 モーラステープ (久光) は経皮鎮痛消炎剤 長期収載品 (1995年発売)

医薬品

- ②⑨ 後発薬の価格引下げ（H24年度 4100億円マイナス）
と、③⑩ 先発薬の価格引下げ（H24年度 240億円マイナス）

※先発薬については、長期収載品の価格引下げ

- ③⑪ 新薬創出加算・適応外薬解消等促進加算
（H24年度 690億円プラス）

先発薬（後発薬なし・収載15年以内）かつ、加算適用企業の製品

全既収載品の平均（薬価-実勢価格）乖離率以下の製品が対象

※価格調査結果の透明化や、薬剤単位の効果検証が必要

- ③④⑤ 流通の改善や、それを評価する仕組みが必要

※価格調査（医薬品・医療機器）の公表体制の検証が必要